

すべての人を歓迎します！

発行責任者：代表／チャプレン 和氣敏治(工学博士)
特別相談役 中野雄一郎(MOM代表)

「一つのからだ」



久遠キリスト教会 牧師

三浦真信

「一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きをしないのと同じように、大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです」(ローマ人への手紙12章4節～5節)

超教派団体に働いた後に30代後半で単立教会の牧師になり、関わる人たちの年齢もタイプも変わり、しばらくどこに牧会の焦点を当てたら良いのかわからず悩んでいた時期がありました。それまでは自分より若い人たちと関わる時間が多かったのに、今度はどちらかという自分はまだ「若い人」と言われるようになりました。

それでも自分なりの立ち位置を少しずつ見つけながら歩んできました。その時に教派を超えた兄弟との交わりがあったので、自分を見失わずに守られてきたように思います。それから15年位、牧会を始めた頃の気持ちのまま走り抜けてきて、気がつくといつの年齢に見合った働きができていないのではと焦るようになりました。その時にも、また教派を超えた方々との交わりを通して、自分自身が今なすべきこと、祈るべき課題が見え

てきました。

公同教会を「一つのからだ」と見るなら、各教会が互いに器官といえるでしょう。各教会に、あるいは各超教派団体に、器官として与えられた賜物があります。共に協力して何かをしていく時に、自分たちの足りない部分も教えられますが、また与えられたところで仕えていく喜びも体験します。6年前の東日本大震災以降、日本でも教会間の壁が大きく崩されたように感じます。それぞれの教会が、与えられた賜物をささげていかなないと、乗り越えられない出来事でした。教会ごとに特徴や、日本にあって与えられている役割は違って良いのでしょうか。「あの教会のようにならなければ」と、同じ器官になってしまうのではなく、違った器官の役割を互いに認めつつ、益々教会が一つのからだとして協力していかなければならない時代にきています。

東京プレーヤーセンターを通して、教派を超えて多くの方々が協力してくださり、祈りを共にしてくださっていることは大きな恵みです。各教会に与えられた器官としての役割を果たしつつ、キリストにあって一つのからだとされている豊かさを、さらに味わっていきたく願っています。

TPCは「日本と世界のリバイバル」を目指します

- (1) 閉塞感のある日本のキリスト教界に元気を与える
- (2) 毎日、礼拝を捧げ、祈り会をおこなう
- (3) 超教派として活動する
- (4) 伝道、学びなどのために貸室を提供する